

# 中国における農村テレビドラマの政治性とその受容 —『劉老根』、『喜耕田的故事』を中心に—

南 真理

## 0. はじめに

中国は国内においては世界第一のテレビドラマ大国であると言われる。アメリカや韓国のテレビドラマが日本を席卷している今、それはにわかには信じがたい言葉かもしれないが、実際に2011年に中国で制作されたテレビドラマは約15000話に上り、毎日40話が制作されている計算になる。また、中国で一年間にテレビ上で放映されるテレビドラマは500万話以上であり、テレビ放送時間の約四分の一を占めている。さらに、インターネット上にはその再生回数が一千万回を超えるドラマも存在している。その海外に与える影響はアメリカや韓国のそれには及ばないものの、その制作本数、視聴者数、国内における文化的な影響力は、他国には見られないほどの規模を誇っている<sup>1</sup>。

こうしたテレビドラマ大国である中国だが、そのテレビドラマの制作環境は特殊である。中国では政治的イデオロギーを堅持するために、マスメディアは政府による管理下に置かれており、メディアコンテンツの一つであるテレビドラマもその例外ではない<sup>2</sup>。その一方で90年代から民間資本を導入して産業化が進み、商業化されたテレビドラマも多数制作されている。そのため現在、中国のテレビドラマは商業化と政治性のはざままで視聴者を獲得するために様々な工夫を行っており、視聴者、制作者、政府関係者の三者のせめぎ合いの場となっている。

こうした状況下にある中国において、日本ではあまりなじみのない農村を主なテーマとして取り扱ったテレビドラマ（以下農村テレビドラマとする）が近年高視聴率を獲得し、社会的に注目を集めている。中国は数千年の歴史を持つ農業国家であり、農民の支持なくして新中国の成立はなかった。そのため新中国成立以前から、農村と都市の格差が問題視される現在に至るまで、文学、演劇、映画など中国の文芸作品に、農村を題材とした数多くの優れた作品が生まれてきた。それは日本の状況とはかなり異なる。例えば文学においては、日本でも1920年代頃から農村を描く文学運動が形成され、1954年に日本農民文学会が成立しているが、日本の農民文学は中国における農民文学（中国では「郷村文学」と呼ばれる）ほどの存在感を示すことはなかった<sup>3</sup>。現在の日本に至っては、農民文学はすでに存在していないと言えるまでに至っているが、中国においては21世紀以後も、郷土としての農村を描く小説のほかにも、都市における出稼ぎ労働者を描いた「農民工小説」

というジャンル<sup>4</sup>が出てくるほど、農民や農村は描かれる対象であり続けている。こうした中国独自の背景の下、中国では農村テレビドラマが政治的、商業的に重視され、実際に視聴者からの人気を獲得している。その背景にあるものは何だろうか。本論では農村テレビドラマの火付け役となった『劉老根』と、その影響を受けて制作された政治色の強い『喜耕田的故事』の分析を中心に、中国テレビドラマに見られる政治性とその受容の様相について考察したい。

## 1. 農村テレビドラマの流れ

中国の農村人口は7億2千万人で、依然として人口の半数以上が農民である中国においては<sup>5</sup>、前述したように農村を題材とした文学、演劇、映画が数多く誕生し、大きな影響を及ぼしてきた。それでは、テレビドラマにおいて農村はどのように描かれてきたのだろうか。まずここでは農村テレビドラマの歩みを見ていきたい。

### 1-1. 80年代中期における農村題材テレビドラマ『新星』

中国でテレビ放送が開始されたのは1958年からであるが、当時の中国には全国でわずか17000台しかテレビが普及しておらず、公共の場所に設置されて皆で視聴するという状態であり、当時テレビの影響力はかなり限定的なものであった。さらにその後の文化大革命によって中国のテレビ事業は中断され、大きく遅れをとることになるため、中国のテレビドラマが実質的な影響力を持ち始めるのは80年代中期以降のことである<sup>6</sup>。当時はちょうど映画の世界では『黄色い大地』(1984)や『紅いコーリャン』(1987)といった中国の農村を描いた作品が国際的にも大いに注目を集めていた時期に当たる。また、歌謡の世界でも「西北風」と呼ばれて陝西省の民謡が大流行する等、批判、または謳歌される叙述の対象として農村が重視されていた。

1980年代中期以前までの中国のテレビドラマにおいては、農村における現代化の問題が多く語られてきた。例えばこの時期大変な人気を博したテレビドラマが、農村改革に奮闘する若き県委員会書記を描いた『新星』である。1986年の春節に『新星』が放送されると爆発的な人気を獲得し、9割の人々が『新星』を見たという社会調査もある。『新星』を放送した中央テレビ台には一ヶ月の間に全国各地の視聴者から1000通を超える投書があり、制作した太原テレビ台には一ヶ月で2000通の激励の投書が寄せられたとされ、これはテレビ放送が開始されてから最多の投書数であったという。また、全国各地の新聞が次々と『新星』に関する評論や紹介を掲載し、ある省や市では、『新星』を政治的な教材として、組織の党員や幹部に一日中見せた所もあった<sup>7</sup>。『新星』で描かれたのは、旧社会から変化のない農村に新しく赴任した李向南が、腐敗した幹部を次々と打倒し、旧来からの問題を

解決して、農村を発展に導く姿であった。それは、当時の中国社会に根強く存在していた問題をあぶり出し、農村改革の必要性を人々に強く訴える内容のもので、「中国に蔓延する深刻な官僚主義の病理と、それがもたらしている悪影響への露骨な批判が中心」であった<sup>8</sup>。李向南の信念に基づいて行動するリーダー像、登場人物たちの心情を熱っぽく語るナレーションからは、テレビドラマに描かれた当時の農村改革への熱い情熱が伝わってくる。この熱狂的な『新星』ブームについて、当時以下のように述べられている。「中国の改革の成果、そして様々な不正、腐敗、改革を求める人々の声、改革を妨げる世論、これらが一つに重なり合って、社会の心理的な不均衡と緊張状態を生み出していた。『新星』が世に出ると、次の二つの作用を発揮した。一つは一種のはげ口として、腐敗や官僚主義に対する人々の憎しみを表出させ、人々に喝采させたこと。二つ目が、人々に不正の根本的な原因や、改革の必要性、またはその困難さを訴え、信念と勇気をもつよう認識を促したことであった」<sup>9</sup>。そして人々の間からは「もしもこの国に李向南がいれば、李向南より高明で民主的な改革者がいれば、内部の消耗は減り、改革が成功するかどうかを心配する必要がなくなるのに」といった声が聴かれたという<sup>10</sup>。この『新星』が視聴者に熱狂的に受け入れられたのは、それが「長期に渡って抑圧されてきた人々の政治への情熱を吐き出す突破口」となったからである。『新星』の社会的な反響は、「全国の人々が享受した『芸術事件』というよりも、全国の人々が切なる関心を抱いた『政治事件』であった」と言われている。つまり、この驚異的な『新星』熱は単なるテレビドラマとしての面白さ以上に、視聴者の「政治」と「改革」を求める心情と呼応したものである<sup>11</sup>。この『新星』からも、他国と比較して中国のテレビドラマが政治と密接に関わっていることが明らかである。その政治性は必ずしも単なる政府から視聴者による一方的なプロパガンダであるとは言いきれない。当時の『新星』への視聴者の反響の背景には清廉潔白な役人を求める人々の中国の伝統的な「清官意識」があり、視聴者はテレビドラマを通じて現実を批判し、李向南のような「清官」が行う改革に希望を託したのである。

## 1-2. 80年代中期以降

しかし、1980年代も中期以降になると、こうした「様々な主流の現代化叙事が多方面から疑われるようになり、現代化言説モデルを超越した、現代中国の言説を再構築することが求められるようになった。この文化的な影響を受けて、映像作品における郷土は変化し、郷土世界は一種の文化的象徴となった。(省略) こうした作品においては、郷土は前近代劇的な空間あるいは象徴的な時空として、前近代的な中国の文化を象徴するものとなっ」ていく<sup>12</sup>。この「前近代的な中国の象徴」としての農村は、映画においては『黄色い大地』や『紅夢』(1991)のように、しばしば閉鎖的で時間の停滞した、救いようのな

い世界として描かれている。しかし、世界的な市場が見込める映画と異なり、当時市場が国内に限られていたテレビドラマは、政府の意向による制限をより強く受けるため、映画で描かれたような農村批判を行うといった内容のものではなく、多くは農村改革を肯定的に描き、農村改革に有利になるようイデオロギー的に働きかけるもので、登場人物たちの政治的任務、社会的責任が厳粛に描かれ、概念化されたものが多かった。しかし、それでもこの時期テレビドラマの世界では、「尋根（ルーツ探究）」や「新写実主義」といった文学作品の流れを受けた、農村に古くから横たわる問題や、農村の現代化における挑戦を描いたテレビドラマも多く制作されたのも事実である。例えば、韓志君による長編小説『命運四十奏』をドラマ化した“農村三部曲”と言われる『篱笆・女人和狗』（1989）、『轎轡・女人和井』（1991）、『古船・女人和網』（1993）は、新しい時代と伝統の狭間で生きる農村の女性の苦しみや希望を描いて、この時期を代表する農村テレビドラマと称されている。

しかしその後、90年代に入って改革開放政策が本格的に進んだことで、人々の目は都市に向けられ、農村は次第に周縁化していく。そのため農村テレビドラマを喜んで見る都会の視聴者が本来少ない上に、農村の人々でさえも、未来へのあこがれを託して、都市生活ドラマをより好んで見るようになった<sup>13</sup>。こうして都市生活を描いたドラマや、時代劇がテレビの画面を席卷し、農村を題材としたテレビドラマは次第に低迷していった。

## 2. 2000年以降の農村テレビドラマとその政治的背景

ところが、2002年に農村のリゾート施設建設をコミカルに描いた『劉老根』が放送されると、瞬く間に高視聴率を獲得し、以後現在に至るまで、農村を題材としたテレビドラマが高い注目を集めるようになる。それには、ちょうどこの時期、「三農」問題が大きくクローズアップされ、都市建設だけではなく農村建設の必要性にも注目が集まったという政治的な背景がある。「三農」とは農村、農業、農民を指し、「三農」問題とは中国の農村問題を指す。この「三農」の概念は経済学者の温鉄軍が1996年に提出した論文が初出であり、その後、次第に政府やメディアで広く使われるようになった。2000年、湖北省監利県棋盤郷党委員会書記である李昌平が、朱鎔基総理に「農民は本当に苦しんでおり、農村は本当に困窮しており、農業は本当に危険である」との内容の手紙を提出した。その後、「三農」問題という言葉が広く使われるようになり、2001年に「三農」問題が政府の公文書に盛り込まれたことで、政府や政策決定者の間に定着し、2003年には中国共産党中央委員会において正式に「三農」問題が工作報告に書き入れられた<sup>14</sup>。そしてちょうどこの時期、党政府は農村の生活向上のための政策を次々と打ち出している。その上、こうした実際の政策だけではなく、宣伝方面においても農村を重視し、農村を題材とした作品を制作することが政府からの指示として出されるようにもなった。2007年の十七大報告では「和

諧文化（筆者注：「和諧」とは「調和のとれた」という意味の中国語）は国民全体が団結し、進歩していくための重要な精神的支柱である。新聞や出版、ラジオ、映画、テレビ、文学芸術の事業を積極的に発展させ、正しい方向に導き、正しい社会の気風を広める。都市と農村、地域が文化的に協調して発展することを重視し、農村や辺境地区、都市に流入している労働者たちの精神面や文化面を豊かにするよう努力する<sup>15</sup>という文言が掲げられ、農民を対象とした文芸創作を行うよう政府から指示が出ている。具体的には、農村を題材とする映画の発展を促進するために、毎年農村を題材とした映画 20 作品、農村で実際に使用される教育目的の映画 30 作品に対して国家広電総局から資金援助を行うと同時に、農村を題材とした 60 作品以上の版權を指定する企業に買い取らせているという<sup>16</sup>。また、2006 年の「国家“十一五”時期文化発展規画綱要」では、さらに明確に演劇、映画、ラジオドラマ、テレビドラマに対して、農村を題材とした作品を一定の割合で創作するよう求めている<sup>17</sup>。

農村テレビドラマの放送に関しては、当時流行していた歴史を題材としたテレビドラマが歴史を歪曲しているという批判を受けたり、幹部の汚職を描くテレビドラマが増えたことに危機感を覚えた広電総局が、テレビの「浄化熒屏（画面浄化）」対策を行い、中央電視台のゴールデンタイムでは、優先的に農村テレビドラマを放送するようにしたという背景もある。また、その社会的貢献や経済効果の面に鑑みて、国家が民間の映像制作会社に資金援助を行い、民間企業による農村テレビドラマ制作を奨励するといった措置も取られ、古くからの国営企業だけではなく、多くの民間企業もその制作に加わるようになった。これによって主旋律テレビドラマ<sup>18</sup>のレベルが向上しただけではなく、農村テレビドラマの市場での競争力や影響力の向上にもつながったという<sup>19</sup>。

このように、農村テレビドラマの隆盛の背景には、まず政府による農村建設への重視があり、それに伴って中央宣伝部、国家広電総局、中央電視台が農村テレビドラマの創作を重視し、その本数や内容を強化するという政治的な意図が明確に存在している。

### 3. 『劉老根』分析

#### 3-1. 『劉老根』から始まる東北劇熱

こうした流れの中で、『当家的女人』（2003）、『希望的田野』（2003）、『聖水湖畔』（2005）等の農村テレビドラマが人気を博すようになるが、その発端となったのが中国で高い人気を誇るコメディ俳優、趙本山が出演するドラマ『劉老根』（2002）であった。趙本山は、1992 年から農村テレビドラマ『一村之長』や 1998 年の映画『男婦女主任』に主演したり、中国の高視聴率番組「春節聯歡晚会」でコントを演じて人気を博していたが、テレビドラマにおいてはこの『劉老根』で高い注目を集めた。それ以後、彼が主演を演じ

る東北地方の農村を描いた『劉老根』、『馬大帥』（2004）、『鄉村愛情』（2006）等の農村テレビドラマは全てシリーズ化され<sup>20</sup>、高い人気を集めている。これらのテレビドラマは全て東北地方を舞台としているため「東北劇」と呼ばれ、基本的には主旋律に則り、東北地方の方言や「二人転」といった伝統芸能を織り込みながら、貧しい農民が豊かになる姿をコメディタッチで描くというのが特徴である。また、この「東北劇」が地方色豊かな内容であったため、物語の舞台となった地域を訪れる観光客が増加し、現地の観光業や飲食業にプラスの作用をもたらした。このように、テレビドラマ自身の人気だけにとどまらず、現地の経済が活性化するなどの付随する作用もあり、農村テレビドラマは急速に産業化の道をたどっていく<sup>21</sup>。

それと同時にその主旋律的な内容から、政府側の評価も獲得しており、中国テレビドラマの最高賞である飛天賞に『劉老根』、『插樹岭』、『希望的田野』、『静静的白樺林』、『喜耕田的故事』、『当家的女人』等の農村テレビドラマが選出されている。このように、農村テレビドラマは政治性と市場性をともに兼ね備えた、まさに今の中国に適した題材なのである。

この2000年以降の農村テレビドラマブームの火付け役である『劉老根』は、2002年に中央電視台のゴールデンタイムの第一チャンネルで放送され、2002年の最高視聴率を獲得し<sup>22</sup>、全国から大反響を呼んだテレビドラマである。制作は中央電視台とその傘下の中国電視劇制作センター、監督は趙本山本人と謝曉峯、脚本は何慶魁、薛立業、万捷が担当している。あらすじは以下の通りである。

あらすじ：長白山のふもとの寒村の幹部（支部書記）を退職した劉老根は、街にいる次男の元で老後を過ごそうとしていたが、やはり故郷への気持ちを抑えきれずにいた。その時、公園で韓水という資産家の女性と知り合う。二人は意気投合し、劉は韓の投資によって故郷に農村リゾート施設である龍泉山莊を開業することを決意する。しかし開業、成功までの過程には、資金繰りの悪化や農民のサービス業への無理解、郷長による妨害といった問題が次々と起こる。また、劉は早くに妻を亡くしており、男手一人で子供たちを育てていたが、そんな彼を慕い世話を焼いている丁香という女性がいる。丁香は劉と韓の関係を怪しみ、度々劉と衝突を繰り返す。劉は家族や村の人々の助けによってそれらの問題を乗り越えていく。

### 3-2. 『劉老根』の魅力

#### 3-2-1. 地方色豊かな内容

繰り返しになるが、『劉老根』以降、東北地方を舞台とした「東北劇」が農村テレビドラマの中心となっていく。その火付け役がこの『劉老根』である。『劉老根』に描かれる

生き生きとした東北地方の特色ある農村は、中国の農村の原風景として中国の視聴者に強いノスタルジーを掻き立てるものであったようだ。それは、趙本山の弟子たちである出演者らの生き生きとした東北方言であり、また繰り返されるとうもろこしや唐辛子が外に干してある東北の農村風景であり、主人公の被るテンの毛皮の帽子や、登場人物たちの劉老根、薬匣子、辣椒等といった農村らしい名前であり、白樺林の風景や、一面に覆われた黒土である<sup>23</sup>。そして特に「二人転」と呼ばれる、東北地方の伝統芸能が東北劇ブームの大きな要因となったことは大きい。二人転とは二人一組で（通常男女がペアとなる）歌を歌いながらユーモアのある掛け合いを繰り返すというものであるが、これが物語の随所にちりばめられ、ドラマの大きな見どころとなっている<sup>24</sup>。ドラマではこうした「二人転」だけではなく、東北地方の秧歌の歌や踊りも取り入れられ、地元の観光業に大きな影響を与えた。さらには全国にこうした東方地方の伝統芸能を鑑賞できる「劉老根大舞台」が設立されるほど、その東北の伝統芸能が人気を博し、以後の東北劇の一番の売りとなっていく。

### 3-2-2. 人物像から見る物語

それでは次に人物像を中心に物語の内容について考察したい。主人公の劉老根は、頑固で周囲と衝突するが責任感が強く、リーダー気質を備え、村の発展を願う村長である。そして心優しいが素直になれず、たまに高圧的な物言いをすることで衝突することもある父親でもある。こうした人物像は、『新星』の「高大全」<sup>25</sup>に描かれた李向南とは全く異なる農民イメージである。さらに、彼は農村の農民企業家として、知識人で都市に住む韓冰から厚い信頼を受け、大学生らを教育する存在でもある。こうした、知識人や都市に住む人々から敬意を表されるような自信に満ち溢れた農民像は、テレビドラマにおいては従来あまり描かれてこなかった姿である。また、その名前「劉老根」にも注目すべきである。「老」は中国語では「古くからの」という意味があり、「老根」という名前は「古くから根を張る」という意味を持つ。これは農村に根を生やして生きる農民のイメージを喚起させる。そこに、劉老根を慕う女房役である丁香や子供達が登場し、頑固な主人公と衝突しつつも家族として彼を温かく見守る様子が描かれている。これによって、中国で最もポピュラーで人気のある家庭倫理劇（ファミリードラマ）の要素も強く備えることになる。そしてさらに、李宝库という憎めないが問題ばかり起こす隣人が登場する。彼は自分の利益ばかりを追い求め、ずる賢いところがあるが憎めないトラブルメーカーであり、彼はある意味典型的な農民像として描かれている。彼は道化役の役割を担っており、以後の農村テレビドラマには必ず彼のような人物が登場し、農村テレビドラマに不可欠な存在となっている。こうした人物像を軸に物語が展開していく。農村テレビドラマはこうした魅力的な人

物たちによる群像劇の様相が強く、こうした村の皆で助け合う濃密な村内の人間関係は、以後の農村テレビドラマの典型的な特徴となっている。

### 3-2-3. 喜劇性、楽観性

2000年以降の農村テレビドラマに共通しているのは、農村が経済的に発展していく姿をコメディタッチで描くという「喜劇性」である。それは上述した二人転やユーモアの富んだセリフや、夫婦喧嘩等の様子に表れている。主演を演じた趙本山はコントの達人であり、彼が制作に携わる農村テレビドラマには全て、コントやユーモアの要素が大きく存在している。そして物語全体の叙述は、農村が経済的に発展していく過程をコメディタッチで描き、結末では必ず大団円を迎えて終る。これは後述するように、テレビドラマとしての気楽な娯楽を提供したいという趙本山自身の意向でもあるが、そこには政治的目的も見え隠れしている。それを以下分析したい。

### 3-3. 『劉老根』の政治性の処理

『劉老根』の政治性について考察するには、まず『劉老根』シリーズのテーマを考える必要がある。『劉老根Ⅰ』は上述したように、リゾート建設をテーマとし、農民たちの反対、協力、実践を経て、龍泉山荘誕生までの過程を描くものであるが、この過程は、まさに農業以外の産業を基に発展する農村の手本となるものである。前支部書記という村の幹部である主人公が、農業を捨てリゾート施設建設という農村開発に努める姿、そしてそれを取りまく村人の姿を描くことで、農民の農村に対する意識の変化を促すという意図が感じられる。そして『劉老根Ⅱ』では、そのリゾート施設の経営上の問題がより具体的に描かれる。例えば理事会の設立について、家族経営の問題、従業員の管理方法、ライバル企業との競争、契約の順守等の施設運営上の様々な問題が発生し、それを主人公が如何にして乗り越えていくかが物語の中心となっている。それは『劉老根Ⅰ』で明示された農村発展の道の応用編であり、農村建設をいかに推進していくかを分かりやすく示したものである。そして、物語全体は、農村が裕福になることで、物語中の様々な問題が全て解決するという楽観主義に満ちている。つまり、農村の市場化は絶対的な「善」であるというメッセージが発信されているのである。しかし、実際の農村の市場化はそう簡単に進むものではなく、実際の農村の状況を反映したものではない。そこに描かれている農村は、ユートピア的な「新農村」である。主人公の設立した「龍泉山荘」はユートピア的農村の商品化に過ぎない。そのために、『劉老根』に対してはコメディ化されすぎて「俗」である、批判性に欠ける、単なる娯楽作品にすぎない、真の農村を描写していない、無責任な楽観主義である等の批判が行われている<sup>26</sup>。しかし、実際に高い視聴率を誇り、文化現象



ともなった農村テレビドラマには、知識人らによるそうした批判の声では掬い取れない視聴者の欲望が現れているはずである。それは、農民自身（または農民以外の視聴者）による農村美化の欲望だと考えられる。彼らがテレビドラマに求めているのは、問題が山積する現実の農村ではなく、ユートピアとしての農村である。そのユートピア的な農村に現実感を与えるために、過剰にも感じられるような濃厚な地方色を加え、享乐的な歌や踊りでパッケージングすることで、現実の農村を美化しているのである。それは趙本山本人が以下のように述べていることから明らかである。

「これまでの農村を題材としたテレビドラマは、常に人々に農村の遅れた汚い部分を見せ、ぼさぼさ頭で垢にまみれた顔をした農民を描いてきた。農村の新しい様子を反映するために、私は資金を出して、昼は仙境、夜は夢の中の天国にいるような、詩情あふれるセットを準備した。そして、鮮やかな服を着た農民が、絵のように美しい風景の中で、彼らの今の物語を繰り広げるのである。」<sup>27</sup>

こうしたユートピア的農村に対する欲望は、農村開発を推進する政府の意向と共謀し、さらに共産党に対する教化と結びつく。それはその勧善懲悪物語に見て取ることができる。『劉老根』には敵役として、馮郷長とその手下の小役人である胡科が登場し、彼らは難癖をつけて劉老根や龍泉山荘から利益を得ようとする。これは農村に実際に存在する役人の腐敗を描いていると言える。しかし、結局は馮郷長の上司である王書記とさらにその上司にあたる楊県委員会書記の登場によって問題はあっさりと解決する。最終話での王書記は次のように述べる。

「言っておくが、彼（筆者注：劉老根）は正真正銘の老党员だ。苦勞して山荘を起したのだ。彼らが罨をしかけたから封鎖しただと？彼らが一体何をしたいと言うのだ。私が問題を解決できないとお前は言っているのなら、この共産党の天下に法がないとでもいうのか？」

そして大団円を迎え、楊県委書記が登場し、颯爽と村にやってくる。農民は周りを取り囲んで彼を歓迎する。このシーンでの楊書記のスピーチは次のようなものである。

「我々の県には、こんなにも素晴らしい山や川がある。こんなにも多くの開発資源がある。それではなぜ、劉老根が一步先んじることができたのか？それは私が思うに、共産黨員としての思いがあるからだ。人々のために何か役立つことをしたい、それが、劉老根が生涯

追い求めるものだからだ。」

こうして物語の最後で共産党の幹部らが登場し、主人公達を保護することで、共産党による政治の潔白さを明示する。昔ながらの悪代官を罷免する清官物語の叙事に、共産党の正統性をからませているのである。これは農民を対象としたテレビドラマとしての一つの重要な政治的戦略であると考えられる。『劉老根』は以前から人々に親しまれてきた伝統芸能をちりばめた完全懲悪物語に、主人公には政治性はないものの、農村建設という現代的意義と共産党の政治性を付与した物語となっているのである。

### 3-4. 趙本山の政治的位置づけ

しかし、ここで指摘しておくべきことがある。それは劉老根を演じた趙本山の中国における文化的、政治的位置づけである。彼は自らをこう語っている。「皆が農民を思い浮かべる時は必ず私を思い浮かべよう。なぜなら私は本当の農民よりも農民だからだ」<sup>28</sup>。つまり、彼は自覚的に「農民らしさ」を演じている、ということになる。ではこの「農民らしさ」とは何だろうか。それは一体誰が思い描く「農民らしさ」なのだろうか。その問題について考えると、彼の人気と切り離すことのできない中央電視台の人気テレビ番組「春節聯歡晚会」が思い起こされる。「春節聯歡晚会」は中国の大みそかに放送される国民的人気番組で、それは中央電視台という中国政府の方針を伝える国営放送で放送され、大変な文化的、政治的影響力をもつ。趙本山は1990年からこの番組でコントを演じていたが、1995年から農民を主に演じるようになり、それ以後、趙本山の人気は揺るぎないものとなっていく。同番組は生放送であり、当然当局からの厳格な管理の下制作され、政府の意向に沿った内容のものしか放送されることはない<sup>29</sup>。ここで趙本山は少し分らず屋で、皮肉屋ではあるが、素朴で心優しく、農村発展の恩恵を受けて政府に感謝している農民を演じてきた。それがまさに政府の望む「農民らしさ」なのである。そのために彼の演じるテレビドラマやコントは中国の政府関係者から高く評価され、知識人らも彼について様々な論評を行うのである。日本では、一人のコメディ俳優のコントが政府関係者や知識人層からこれほど注目を集めることはまずないだろう。その一方で、趙本山演じる農民の姿は、農民や一般市民からも大変親しまれている。つまり、趙本山は実際の農民の代表ではなく、それは一種の文化的、政治的アイコンとして機能しているのである。彼は二人転等に代表される民俗文化を体現する民族英雄であり、さらに「正しい」政治性を持った人物として政府からの支持も得ている。この両面を併せ持つからこそ、彼の描く農村ドラマやコントが、中国のあらゆる階層からこれほどまでに支持されているのである。この彼自身の背景にある政治性からも、趙本山の農村ドラマが実際の農村を描けず、批判性に乏しい

ことは理解できる。そうであるからこそ、ドラマの舞台が「農村リゾート建設」というパッケージされた偽の農村を売る場所に設定されたのであると言えるのではないだろうか。ただ、それは政府側の政治的意図と視聴者の農村への欲望の両方を投影したものとして、大きな影響力を持つに至ったのである。

#### 4. 『劉老根』、「東北劇」ドラマの影響—『喜耕田的故事』を中心に

こうした『劉老根』の成功によって、その後の農村テレビドラマは大きく発展し、それに強く影響を受けたドラマが量産されていく。宣伝部が制作する主旋律ドラマにも、人物設定、物語進行、シーン設定等に『劉老根』の影響が強く見うけられるものが存在している。次に、そうした主旋律ドラマである『喜耕田的故事』を見ていくことで、『劉老根』の影響について考えたい。『喜耕田的故事』は、上述したような批判精神の欠如や無責任な楽観主義などの『劉老根』に対する批判を受けて制作された、政治色のより強い主旋律テレビドラマである。ここから近年の『劉老根』を始めとする商業的農村テレビドラマとはまた色合いの異なる、政治性のより強い主旋律農村テレビドラマについて考えていきたい。

『喜耕田的故事』は2007年8月から中央電視台第一チャンネルのゴールデンタイムに放送された全19話のテレビドラマである。物語は都市で出稼ぎ労働者として働いていた喜耕田が、2006年に農業税が廃止されたことを知って、自らの故郷である山西省の農村「喜家庄」に戻り、社会主義新農村を建設するべく奮闘し、村人が参加する経済合作社を設立、喜家庄が新農村建設模範村に選ばれるという内容である。物語の舞台は山西省で、監督と脚本は農村を題材とした作品を多く手掛けている山西省出身の牛建榮<sup>30</sup>が担当している。制作は山西省文明辦（「山西省精神文明建設指導委員會辦公室」の略称）、山西電影制片廠、太原市委宣伝部、中央電視台文芸中心影視部である。同作品は、中央電視台テレビドラマ審査チームの審査、中央宣伝部文芸局、中央電視台影視部の許可を経て、党の十七大献礼重点影視劇作品とされた<sup>31</sup>。こうした経緯やその物語からも明白なように、『喜耕田的故事』は明らかに、ある政治的意図に基づいて制作された主旋律作品であり、その内容面での政治性は『劉老根』を遙かに凌ぐ。しかしながらこうした政治性を強く備えた『喜耕田的故事』も視聴者にも広く受け入れられた。『喜耕田的故事』の平均視聴率は6.66%で、最高視聴率は9.52%に達し、2007年の中央電視台第一チャンネルで放送されたテレビドラマの中では第二位の視聴率を獲得、また農村を題材としたテレビドラマでは最高視聴率を記録したとされている<sup>32</sup>。そして政府による飛天賞<sup>33</sup>の「長編テレビドラマ一等賞」、金鷹賞<sup>34</sup>の「長編優秀テレビドラマ賞」、「男優賞」も獲得している。そしてこの『喜耕田的故事』の好評を受けて、2009年に再び中央電視台のゴールデンタイムに続編の『喜耕田

的故事2』が放送されている。それではこの主旋律ドラマである『喜耕田的故事』は政治性をいかにして処理し、視聴者に広く受け入れられているのだろうか。

#### 4-1. 制作の背景

まず、『喜耕田的故事』が制作された政治的な背景を考えたい。『喜耕田的故事』は、農業税の撤廃<sup>35</sup>を知った出稼ぎ労働者の喜耕田が故郷に戻って農業に従事することから物語が始まっていくのだが、ここから明らかのように、まずこの農業税の撤廃を民衆に知らしめ、都市に出稼ぎに来ている農民に故郷に戻って農業に従事するよう促す政治的意図が存在している。また、農村からの出稼ぎ労働者が増え都市に流入したことで、都市に新たな問題が生まれ、かつ農地が荒廃していったため、政府は出稼ぎ労働者を農村に戻らせる政策を打ち出した。これらの農業税の撤廃と社会主義新農村建設が呼びかけられたのが2006年で、この政策を背景に制作されたのが『喜耕田的故事』であり、『劉老根』よりその政治的目的がより明確に示されている<sup>36</sup>。

しかし、市場とは関係を切り離せないテレビドラマとして、その制作の背景には当然経済的な裏付けがある。上述したように、2002年の『劉老根』シリーズから始まる、趙本山が出演する東北地方の農村を舞台としたドラマがここ数年市場を席卷しており、農村テレビドラマに注目が集まっていたという事実を受けて制作されたことは間違いない。さらに、これらに便乗する類似作品の「東北劇」が次々と現れたことで、「東北劇」の目新しさが失われており、さらには上述したような「東北劇」の様々な問題点も指摘されつつあった。そこで、「東北劇」とは一味異なる別の地方の農村テレビドラマの市場があるとの判断があったのではないかと考えられる。

#### 4-2. 『喜耕田的故事』の魅力と『劉老根』の影響

それではまず、『喜耕田的故事』の物語の魅力について考えてみたい。この物語の魅力には『劉老根』の影響が強く見受けられる。

『喜耕田的故事』では都会では失われた濃密な人間関係が描かれる。例えば、出稼ぎに行った両親に置いていかれた子供を、周囲の村民が親代わりに面倒をみたり、嫁と姑がもめて、嫁が姑の世話をしようとしないうのを村民が注意し、姑を守るといった村民内の互助的な人間関係が描かれる。また、喜耕田一家の住む家は、夫婦の住む棟、娘の住む棟、息子の住む棟がそれぞれあって広々としており、しかしひと声呼べば皆がすぐ集まる一家団欒の場である。また隣人もいつも気兼ねなくやってきては、井戸端会議に花を咲かせる。このように、都市ではすでに見られない、のどかで濃密な村人間の人間関係や家族愛が描かれ、都市の視聴者も農村の視聴者も、ともに親しみや懐かしみをもって物語を受け入れ

ることができる。これらは全て伝統的な倫理観を描いており、家庭倫理ドラマ的な要素も強く表れている。これは『劉老根』と通じるところがかなり大きい。

また、東北地方とは異なる山西風土もドラマの一つの魅力となっている。監督は山西省の農村出身であり、俳優陣にも山西省出身者を多く起用している。喜耕田を演じた林永建は山東省出身であるが、山西省の方言を十分にマスターした上で撮影に臨んでおり、その方言に親しみを感じるという視聴者の声が多くインターネット上に書き込まれている。また『喜耕田的故事』は一年間かけて撮影されており、その間の四季が物語に反映され、美しい農村の風景も視聴者の心をとらえる。しかし、こうした、山西地方の景観に彩られた、温かい人間関係が保たれている「美しい農村」は農村の平穩、ひいては「和諧社会」を反映する「新農村」の姿であり、東北劇と同じく、ある意味一種の「理想郷」としての農村の姿であると言えるだろう。

次に人物像を見ていく。主人公の喜耕田は心優しい農民であるが、諧謔精神にあふれ、時には嘘をついて悪人をこらしめることもある。また、その一本気な性格のために妻や子供、村の幹部と衝突することも多い。しかし、家族や自分の故郷を愛し、村の様々な問題に奔走する素朴な農民として大変魅力的な人物像である。そしてこの平凡な農民が起業して村に富をもたらし、リーダーシップを発揮して村を一つにまとめあげ、模範農村として国家から奨励されるまで村を率いていく。こうした人物像は劉老根とかなり共通している。しかし、劉老根は農業には見切りをつけて政府に頼ることなく農村の農業以外の産業化の道を探る商人となった農民であり、主人公の人物像そのものに政治性は付与されていない。しかし、「喜んで田を耕す」というその名前からも明らかなように、喜耕田には政治的なメッセージが明確に付与されており、政府からの呼びかけを受けて農村に戻り、政府の指標に則って行動する人物となっている。さらに『喜耕田的故事2』では共産党に入党する過程が描かれるなど、彼には劉老根よりその政治性が色濃く表れている。この喜耕田の、人物的魅力を備え愛される存在でありながら、政府の政策に忠実であるという人物設定は二重の意味で「理想化された農民」の姿となっている。この「理想化」には政府が求める政治的に「理想的な農民」と、視聴者が求める想像上の素朴な「理想的な農民」二つの姿が重ね合されている。この二つの「理想的な農民」像が主旋律ドラマ『喜耕田的故事』の政治性と娯楽性のバランスを保っている。

### 4-3. 物語の叙述

#### 4-3-1. ナレーション

それでは次に『喜耕田的故事』の政治性の処理方法を、物語の叙述方法から見ていきたい。『喜耕田的故事』はどのように物語を語っているのだろうか。まず指摘しておくべき

なのは、主人公のナレーションである。冒頭で、「わしのことを紹介するのを忘れていた。わしは何者だろうか？ わしは皆に物語を語っているこの人で、喜耕田と言う。」というナレーションが入り、それ以後もしばしばこの主人公による独白が挿入され、農民自身の気持ちや農民の声によって分かりやすく視聴者に伝わるようになっている。そもそも『喜耕田の故事』の本来のタイトルは『2006年——個農民的自白（ある農民の独白）』であり、このタイトルからも、独白＝ナレーションが重要な要素であったとことがうかがえるが、中央政治局委員で、中央宣伝部部長である劉雲山自らが本ドラマの審査を行い、このタイトルはドキュメンタリー調で目標とする視聴者に合わないのではないかとの考えから、さらに素朴で、親近感を覚える『喜耕田の故事』に変更したという<sup>37</sup>。ここからも主要な視聴者を農民と考えている様子がうかがえる。喜耕田が村に戻って、再び農業に従事する決意をする際には次のようなナレーションが挿入される。

ここ数年、農民たちは都市で出稼ぎをするばかりで、素晴らしい土地が荒れ果ててしまい、それを見るたび心が痛んだ。農民が農業をしなければ、土地に申し訳が立たない。農民が農業をしてもよい収入が得られないなら、それは農民に申し訳が立たない。わしは農民だ。わしは農業をする。わしが農業をしなければ、国家の素晴らしい政策に申し訳が立たない。

農民が農業をしなければ、土地は人と同じで、しなければいけないほどそれに対する愛着がなくなってしまうものだ。わしはここ数年都市にいて、土地を目にすることができなかったから、いつも気持ちが落ち着かなかった。（第一話）

このように、農民である喜耕田自身に農民自身がその土地に愛着を持っているとナレーションで語らせることで、政府の政策に従って農業に再び従事するというよりも、農民自身の土地への愛着を強調し、農民が自主的に農業に従事することを訴える内容になっている。このような農民の声によるナレーションは、政府の意向を喜耕田の声によって内面化し、喜耕田の声として、視聴者に政府の意向を伝える効果を果たしている。中国の主旋律テレビドラマにおいてナレーションは重要な語りの要素の一つであると考えることができる。

#### 4-3-2. 社会問題の描写

『喜耕田の故事』には様々な農村の社会問題が描かれる。例えば農業税の免除に伴う農村の財源問題や、両親が出稼ぎに行き農村に取り残された子供の教育問題、老人介護の問題

題、農村の経済活性化の問題、身体障害者への補償問題、偽装食品問題、著作権に関する問題、緑色農業の問題、粗悪製品の問題、汚職、幹部と農民の意見交換不足、村に残る迷信等、様々な問題が喜耕田の身に次々と降りかかる。こうした問題は確かに現在の中国に多く見られる問題であり、これらの問題が描かれたならば、ドラマの問題意識が強まり、その社会批判性を高めることができるはずである。しかし、『喜耕田的故事』では、こうした問題は物語の起伏として視聴者を飽きさせないための「出来事」としてのみ機能している。喜耕田の身に降りかかるこれらの問題は全て、農民を思いやる農村、鎮、県の幹部、または良心的な企業家、農村内部の人間関係によって全て解決してしまう。これらの様々な問題はどれも視聴者の身近に起こりうる問題であり、視聴者の興味を引くのに十分なものばかりであるが、結局は全て特に大きな問題にはならずすぐに解決に向かい、物語全体が楽観主義に貫かれている。ただ、『劉老根』においてはこうした社会問題はほとんど触れられることはなく、ここに『喜耕田的故事』の『劉老根』に対する反省が見られる。ただ、それも明確な批判精神を持つまでには至っていない。

#### 4-3-3. 幹部の描写

上述したように、『喜耕田的故事』には村長、鎮長、県長が登場するが、いずれも農民のことを真に理解している理想的な幹部ばかりで、彼らの口を借りて国の方針がそのまま伝えられている。例えば身を粉にして村のために働く村長が、村人が一丸となって新しい産業を作ろうと人々に優しく呼び掛ける場面では、村長が国家の政策を分かりやすく語りかけ、バックには感動的な音楽が流れる。これはなぜ農村の市場への参入が必要なのか、政府の考えをより感情的に、分かりやすく伝達するという意義を持っている。また、牛県長はその高い地位にも関わらず、「自分も農民であるから」と喜耕田を何とか助ける。さらに最終話では退職する前日に喜家庄にやって来て、喜家庄の発展を目にして、満足げに喜耕田ら（ひいては視聴者）を激励する。こうした優れた幹部の姿は、『新星』においては主人公によって体现されていたが、『劉老根』、『喜耕田的故事』になると、農民である主人公たちを温かく見守る存在として登場することになる。現在の農村ドラマの主人公はあくまでも「農民」である。そしてその背後で政府関係者が見守っているという構図になっている。これはまさに政府からのメッセージにほかならないだろう。

#### 4-3-4. 楽観主義

そして物語が楽観主義に貫かれているのも『劉老根』と同様である。様々な問題が起こっても、それは喜耕田の奔走や関係者の理解によってほぼ問題なく解決してゆく。物語中にスリルはあっても悲劇は存在しない。この楽観主義は『喜耕田的故事』の主題歌にも

如実に表れている。この歌詞には、政策に従えば農村は経済的に発展し、人々は無条件に幸せになれるというメッセージが含まれており、物語もまさにこの主題歌通りに進んでいく。物語には様々な問題を引き起こす人物が登場するが、最終的にはみな心を入れ替え、真の悪人は一人も登場しない。このように、やはり農村テレビドラマで描かれるのはまさに理想郷としての農村なのである。

## 5. 結論

以上 2000 年以降の農村テレビドラマブームを牽引した『劉老根』と、その影響を受けて制作された主旋律ドラマ『喜耕田的故事』を見てみると、農村ドラマのある共通する特徴が現れる。それをまとめると以下の通りとなる。

- ・ 地方色豊かな映像で、農村を美しく描く。
- ・ 主人公はリーダーシップを兼ね備えつつも、欠点もある愛すべき農民であり、彼を支える周囲との心温まる濃密な人間関係が描かれる。
- ・ 台詞や動作がユーモアに富み、個性豊かで魅力あふれる村人が登場する群像劇である。
- ・ 主人公らを見守る共産党員の幹部が必ず登場し、問題解決に導くことで共産党の宣伝効果を有する。
- ・ 物語の叙事は楽観主義に満ちており、農村の市場化が完全な善として描かれる。

特に最後の特徴は大変重要である。農村ドラマにおいて、農村の市場化の正統性を疑う者は一人も存在せず、楽観主義に満ちた物語の中で、本来農村の市場化とは無関係であるはずの個人の恋愛や隣人との人間関係に関する問題全てが、農村の市場化が達成することで解決へと向かっていく。特にこの傾向は、後の東北劇シリーズである『鄉村愛情故事』シリーズ<sup>38</sup>にも受け継がれ、より強化されている。これは、視聴者がドラマを見続けようと思う動機となる、人間関係や恋愛関係におけるドラマ性と、農村の市場化を推し進める政府側の政治的意図が巧妙に合致したものであると言えるだろう。

J. フィスクは、テレビドラマの「ジャンルは、その特性が時代の支配的イデオロギーと密接な関連性を持っているときに人気が出る」と述べている<sup>39</sup>。80年代、90年代の農村テレビドラマには、文学における「新写実主義」の影響が見られ、以前から農村に横たわっていた問題や現代化の過程で必要となった挑戦が描かれてきた。『新星』はそういった現実的な問題に直面し、果敢にその問題を解決していく主人公を描き、人々は彼に希望を託した。文学の世界では90年代以降、従来描かれてきたような神秘性や崇高性を失い、現実を前にして戸惑う農村の幹部たちが描かれ、世紀末の農村の無秩序な状態に対する、作家の焦りや憂慮といった批判的な視点が描かれてきた。しかし、2000年以降、空前の農村



テレビドラマブームの中で描かれた農村は、新しい社会問題を提起してはいるものの、全体的には楽観主義に満ちた理想郷としての農村が描かれるばかりである。このテレビドラマに描かれる「理想郷」としての農村には、政治的な要求と視聴者からの要求という、二つの要求が反映されていると考えられる。まず政治的な要求としては、そこに現代中国で最も重要な政治タームである「和諧社会（調和のとれた社会）」を体現する「理想郷」としての意味が付与されている。それは上述したように、中国におけるテレビドラマが政府による厳格な管理下にあり、政府の政治的イデオロギーを強く反映せざるを得ないことが大きな理由の一つとしてある。しかし、商業マスメディアであるテレビドラマが人気を博すということは、政治的な側面以外の視聴者からの視線が必ず存在する。「番組がさまざまに異なる視聴者から人気を集めるといことはその開放性と多義性にに基づく」のであり、「テキストという形態を通して作用する支配的なイデオロギーは、社会的にさまざまな位置を占める読者によって、拒否されたり、回避されたり、さまざまなかたちで処理される」ものである<sup>40</sup>。『劉老根』の視聴者分布を見ると、意外にも農民だけではなく、高学歴な都市の視聴者が多いという事実がある<sup>41</sup>。ならば、農村ドラマに描かれる農村には、農民に限らず都市の人々の「理想郷」への複雑な欲望をもち投射されているのではないだろうか。彼ら自身も農村の現実そのものを直視することを望んではおらず、まさに『喜耕田的故事』のナレーションのような「主観的な視点」、理想郷への思いを投射した視線によって物語を受容しているのではないだろうか。こうした「理想郷」としての農村を描く傾向は、農村の郵便配達を父から受け継いだ親子を抒情的に描いた『山の郵便配達』（1999）に代表される映画にも見受けられる。しかし、現に農村で生きている農民や都市の人々が、日常生活の中での娯楽として消費するテレビドラマにおいては、文学に描かれるようにどうしようもない現実を直視することもできず、また映画のようにセンチメンタルになることもなく、コミカルなタッチで牧歌的な理想郷を描かざるをえないのだろう。そしてそれはある意味、経済発展に伴ってグローバル化が進んだ競争社会に生きる人々の、農村によって記号化された民族文化の本源回帰への欲望も内包しているのではないだろうか。そのため、農村テレビドラマには過剰なまでの地方色（中国らしさ）が植え付けられ、善良な村人が登場し、ユートピア的な「農村らしさ」が強化されているのである。また、商品経済が発展し、先富論が重んじられて貧富の差が拡大していく中で、「村人が一丸となって共に豊かになる」という、個人主義を廃したストーリーに都市の人々も共感を覚えるといった側面もあるだろう。つまり農村テレビドラマは、単なる農民を教化するものではなく、そこには「農村」に対する人々の様々な欲望が投影されているのである。つまり、「農民」や「農村」は、現代中国社会に生きる視聴者の潜在的な欲求を体現したコードとして機能しているとも考えられる。そのため、現在の農村テレビドラマについて

批判性がないと論難することは簡単であるが、そこには政府、制作者、視聴者の黙契があると考えるべきである。そして、これまで政治的または文学的な面からしか注目されてこなかった農村が、テレビドラマという商業的なメディアから初めて注目されたことは、一種の新しい「農民像」が中国国内に生まれていることを感じさせる。商業文化の表舞台に「農民」が現れてきたということは、現代中国の人々の意識における「農民像」が変化してきたことを如実に物語っている。

## 注

- 1 尹鴻「劇領中国：当前電視劇的創作与生産」『今伝媒』2011年第3期
- 2 中国のテレビドラマは、国家直轄部門の国家廣播電影電視総局（国家ラジオ映画テレビ総局）と中央宣伝部によって直接指導、管理が行われている。国家広電総局と中央宣伝部は、様々な法律や法規、内部規定によって、テレビドラマのテーマ、内容、制作、放送時間、放送チャンネル等に対して管理・制限を加えている。さらに、飛天賞等の政府による賞を設置して（政府にとって）優れたテレビドラマを表彰することによって、一般大衆に強い影響力を持つテレビドラマの政治的イデオロギー性、宣伝教化機能を保持しようとしている。
- 3 加藤三由紀「中国郷村文学の現代的意味」『日本中国当代文学研究会会報』第23号 2009年11月
- 4 農民工小説については周水濤等『新时期農民工題材小説研究』社会科学文献出版社 2010年に詳しい。
- 5 都市に出稼ぎに出ている農民工は1億5000万人といわれており、それも含めると人口の6割以上が農民となる。川島博之『農民国家中国の限界—システム分析で読み解く未来』東洋経済新報社 2010年 37頁。
- 6 それ以前の農村テレビドラマの流れについては以下の論文等で詳しく述べられている。逢格焯「中国農村題材電視劇的三次創作高潮」『電影文学』2010年第7期、周星「文化概念變異視野中的農村電視劇概観」『中国廣播電視学刊』2010年第4期、仲呈祥、張新英「輝煌歴史 激情展望—中国農村題材電視劇發展簡述」『当代電視』2009年12期。
- 7 王鉄「民族的熱情保持在偉大歴史悲劇的高度上—電視劇『新星』觀衆調查報告」『社会学研究』1987年第1期。また当時の『新星』の人気については今もインターネット上でも語られている。例えば百度貼吧「『新星』電視劇播出后有多少觀衆收看」<http://tieba.baidu.com/f?kz=755288871> 等。最終アクセス確認 2012年9月17日

- 8 ジェームズ・ラル著 田畑光永訳『テレビが中国を変えた』岩波書店 1994年 148頁。本書は『新星』についてかなり詳細に論じている。
- 9 朱浄宇「遅到的文学熱」『社会』1987年第3期
- 10 褚元仿 惠之「『新星』、『夜与昼』所引起的接受心理的思考」『探索与争鳴』1986年第6期
- 11 王鉄「民族的熱情保持在偉大歴史悲劇的高度上－電視劇『新星』觀衆調查報告」『社会学研究』1987年第1期。
- 12 呉海清「郷土世界日常生活的現代想像－郷土題材影視作品的文化研究」『芸術評論』2010年第11期
- 13 劉旭東「農村題材電視劇的來路及走向」『当代電視』2010年第1期
- 14 詳しくは温鉄軍著 丸川哲史訳『中国にとって、農業・農村問題とは何か？〈三農問題〉と中国の経済・社会構造』作品社 2010年参照。
- 15 「胡锦涛在党的十七大上的报告」新華網  
[http://news.xinhuanet.com/newscenter/2007-10/24/content\\_6938568\\_6.htm](http://news.xinhuanet.com/newscenter/2007-10/24/content_6938568_6.htm) 最終アクセス確認 2012年9月17日
- 16 「“農村劇”為何收視率飆昇」『邢台日報』2007年7月5日
- 17 新華網 [http://news.xinhuanet.com/politics/2006-09/13/content\\_5087533\\_3.htm](http://news.xinhuanet.com/politics/2006-09/13/content_5087533_3.htm) 最終アクセス確認 2012年9月17日
- 18 一般的に政府関係者が制作に携わった、内容的にも政治色が強いテレビドラマを指す。
- 19 徐旭「農村題材電視劇的創作特徵及趨勢」『伝播実務』2008年第1期
- 20 『劉老根2』（2003）、『馬大帥2』（2005）、『馬大帥3』（2006）、『郷村愛情2』（2008）、『郷村愛情3 郷村愛情故事』（2010）、『郷村愛情4 郷村愛情交響曲』（2011）
- 21 この時期から農村テレビドラマは一作品あたりの話数が増え、長編化していく。
- 22 「『劉老根』去年全国收視排第一」『北京娛樂信報』2003年7月2日
- 23 金輝「電視劇『劉老根』的郷土文化分析」『青年記者』2009年24期や、以下の視聴者の声を参照。
- 24 視聴者の声は天涯社区「『天涯雜談』你也來談談『劉老根』」等を参照した。<http://www.tianya.cn/publicforum/content/free/1/69696.shtml> アクセス最終確認 2012年9月17日
- 25 文化大革命時期に提唱された、主人公を崇高で威風堂々とした、完全無欠の人間として描く方法。
- 26 孫海平「農村題材電視劇藝術創作手法鄒議」『電影文学』2010年第12期、「農村題材

- 電視劇的矛盾困境」『光明日報』2006年8月8日等。
- 27 「赵本山再叙《刘老根》」『中国芸術報』第403期 2003年5月10日
  - 28 張悦「依然的老趙」『電影画刊』2007年第3期 38 - 39頁
  - 29 そのため趙本山とともに人気のあるコメディ俳優、陳佩斯は思い通りの内容を演じさせてもらえないとして、番組を降板している。和璐璐「陳佩斯与春晚决裂的前前后后」『環球人物』2006年第10期
  - 30 中央戲劇学院監督学科卒業、山西省戲劇研究所二級監督。農村を舞台としたテレビドラマ等を数多く手掛ける。1989年から現在までに、脚本や監督を担当した『我惹誰了』『黄河那道弯』『喜耕田的故事』等、中央電視台のゴールデンタイムに放送されたテレビドラマは十数作品に上る。この中で『小村風景』は国家が表彰する優れたテレビドラマに贈られる飛天賞の三等賞、全国優秀短編テレビドラマ二等賞を獲得、ラジオドラマ『立春』は中央宣伝部の「五个一工程奖」を獲得している。
  - 31 黄河新聞網「十七大献礼電視劇《喜耕田的故事》央視一套播出」<http://www.sxgov.cn/xwzx/sxxw/sxyw/469524.shtml> 最終アクセス確認 2012年9月17日
  - 32 「2007年度優秀電視劇創作檢討会專輯」『当代電視』  
中央電視台 HP「《喜耕田的故事》創農村題材電視劇收視新高」<http://cctvenchiridion.cctv.com/20070903/102507.shtml> 最終アクセス確認 2012年9月17日
  - 33 1980年に設立された、広電総局が主催するテレビドラマの“政府獎”。
  - 34 雑誌『大衆電影』が主催していた「『大衆電影』金鷹賞」が前身で、中央宣伝部の批准を経て、中国文学芸術界連合会と中国テレビ芸術家協会が主催する、全国規模のテレビ番組に対する賞。視聴者の投票で選出する唯一の国レベルのテレビドラマ賞とされているが、主旋律的な作品が選出される傾向にある。
  - 35 農業税とは、1958年6月に全国人民代表大会常務委員会で可決された「中華人民共和國農業税条例」によって定められた税金で、毎年の生産量に基づいて農業生産に携わる企業や個人から徴収する税である。胡錦濤政権は農村の発展を促すためにこれを廃止するという決定を行った。
  - 36 孟苗「《喜耕田的故事》拍摄纪事」『山西日報』2007年8月21日
  - 37 孟苗「《喜耕田的故事》拍摄纪事」『山西日報』2007年8月21日
  - 38 『鄉村愛情1』（2006）、『鄉村愛情2』（2008）、『鄉村愛情3 鄉村愛情故事』（2010）、『鄉村愛情4 鄉村愛情交響曲』（2011）このシリーズは、農村の若者を主演にそれぞれが村で事業を行う姿を、恋愛を交えながら青春物語として描いており、恋愛や結婚の成功の可否が村の事業の成功と深く結びついている。中国の大手動画サイトである優酷の調査によると、シリーズ最新作『鄉村愛情協奏曲』は30才以下の男性が主な

視聴者であり、2011年5月のテレビドラマの再生率トップとなっている。「優酷指数研究報告 2011年5月」<http://www.cnad.com/html/Article/2011/0915/20110915145117499.shtml>

最終アクセス確認 2012年9月17日

- 39 J. フィスク 伊藤守他訳『テレビジョンカルチャー—ポピュラー文化の政治学—』梓出版社 1996年 171頁。
- 40 J. フィスク 伊藤守他訳『テレビジョンカルチャー—ポピュラー文化の政治学—』梓出版社 1996年 62-64頁
- 41 「農村題材也能創造収視奇跡—電視連続劇『劉老根』収視分析」『中国電視収視年鑑』伝媒大学出版社 2003年によると、『劉老根』の視聴率は都市が11.2%、農村が8.9%であり、また、低学歴より高学歴な視聴者の方が多いという統計が出ている。ここから、実際の視聴者は農村、農民に限らないということが言える。ただし、北方が高く（例：太原市 20%）、南方が低い（例：広州市 1.1%）という傾向は顕著である。